



**ENEOS Xplora**

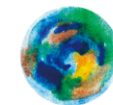
**JERDA 2025 CCSバリューチェーンセミナー**

**当社の貯留事業の取組状況**

2025年3月3日

ENEOS Xplora株式会社

取締役 副社長執行役員 山田哲郎



- 当社の戦略と2050年に向けたロードマップ
- 国内CCSプロジェクト進捗状況（先進的CCS）
- その他国内および海外CCS/CCUSプロジェクト進捗状況

# 当社の戦略と2050年に向けたロードマップ

- 2030年代前半を目指しCCSを実装。ファーストムーバーとして、競争優位性を構築
- CCSを軸とした多様なビジネス展開で社会のサステナビリティ実現に貢献



# 国内CCSプロジェクト進捗状況（先進的CCS）

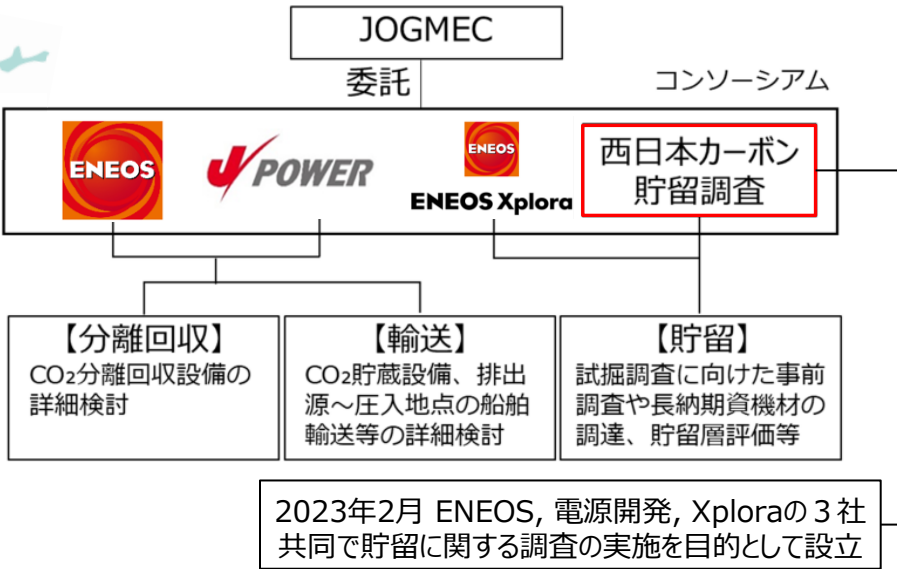
## 調査における想定エリア

**九州西部沖CCS** 瀬戸内・九州地域の製油所、石炭火力発電所から九州西部沖の貯留地へ運搬・圧入

貯留地の候補エリア



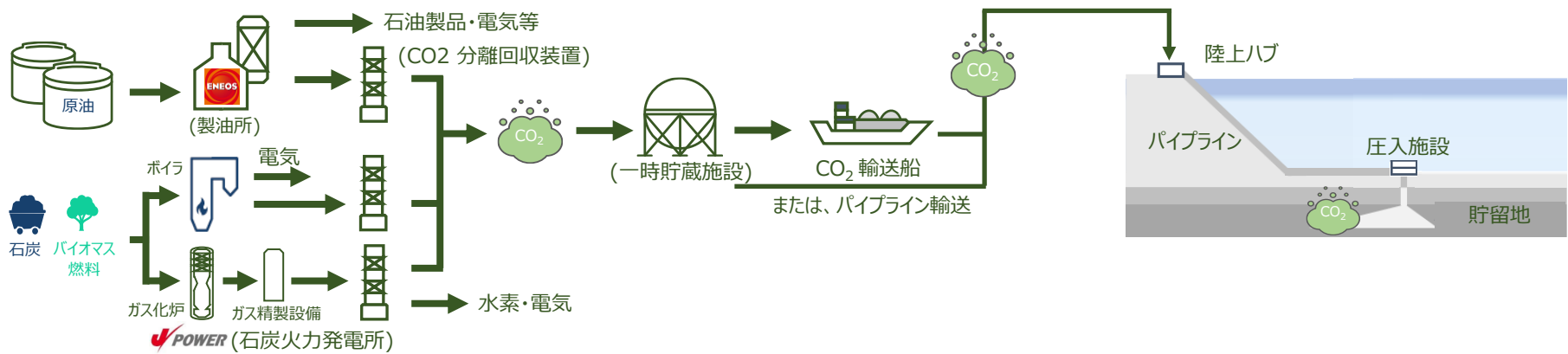
## 取組み体制



貯留量：170万 t/年を計画  
→圧入開始後のモニタリング情報や貯留ニーズ等から年間貯留量の増量を検討

拡張性：製油所・発電所の回収量を拡大するとともに、近隣排出事業者との連携を検討

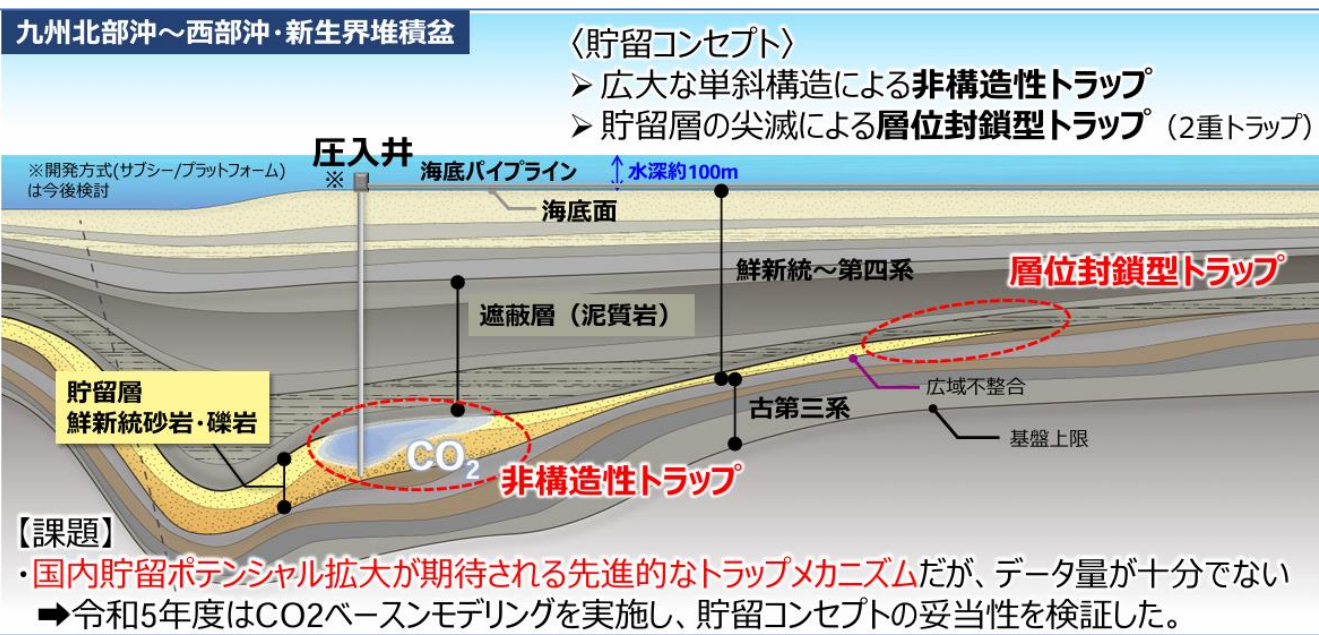
## 製油所・発電所からのCO<sub>2</sub>回収 → 輸送 → CO<sub>2</sub>貯留



# 国内CCSプロジェクト進捗状況（先進的CCS）～R5、R6年度の取組み

## ■ CO2地下貯留計画の精度向上に向けた取組み

令和5年度 JOGMEC「先進的CCS事業の実施に係る設計作業等」を受託し、西日本における大規模CCS実装に向けた国内バリューチェーンの検討を実施。CO2貯留に関し、貯留コンセプトの検証、今後の取組みの整理等を行った。



(2024年9月26日開催 JOGMEC「令和5年度先進的CCS事業成果報告会」資料より抜粋)

## ■ 社会受容性の向上に向けた取組み

令和6年度 長崎県産業振興財団主催「水素事業化研究会 セミナー ZERO CARBON STEP NAGASAKI」における講演。西日本カーボン貯留調査では、長崎県庁等地元自治体の協力も得て、これまで地元からの社会受容性向上に向けた様々な取組みを実施。1月開催の同セミナーでは、西日本での貯留を目指す唯一の先進的CCS事業の取組みについて説明し、さらなる地元理解の醸成に努めた。

CO <sub>2</sub> 貯留の社会性と 企業が抱える様々な課題について	ST001 長崎県産業振興財団 理事 兼 長崎県 産業振興部長 安達 英明 様	ST002 CO2貯留の最新動向について	ST003 国内貯留ポテンシャル調査 の現状と今後の展望について	ST004 水素利用の現状 と今後の展望について	ST005 貯留ポテンシャル調査の 現状と今後の展望について
ST006 水素利用の現状 と今後の展望について	ST007 貯留ポテンシャル調査の 現状と今後の展望について	ST008 水素利用の現状 と今後の展望について	ST009 貯留ポテンシャル調査の 現状と今後の展望について	ST010 水素利用の現状 と今後の展望について	ST011 貯留ポテンシャル調査の 現状と今後の展望について

日 時 令和7年1月23日(木) 13時10分～15時30分

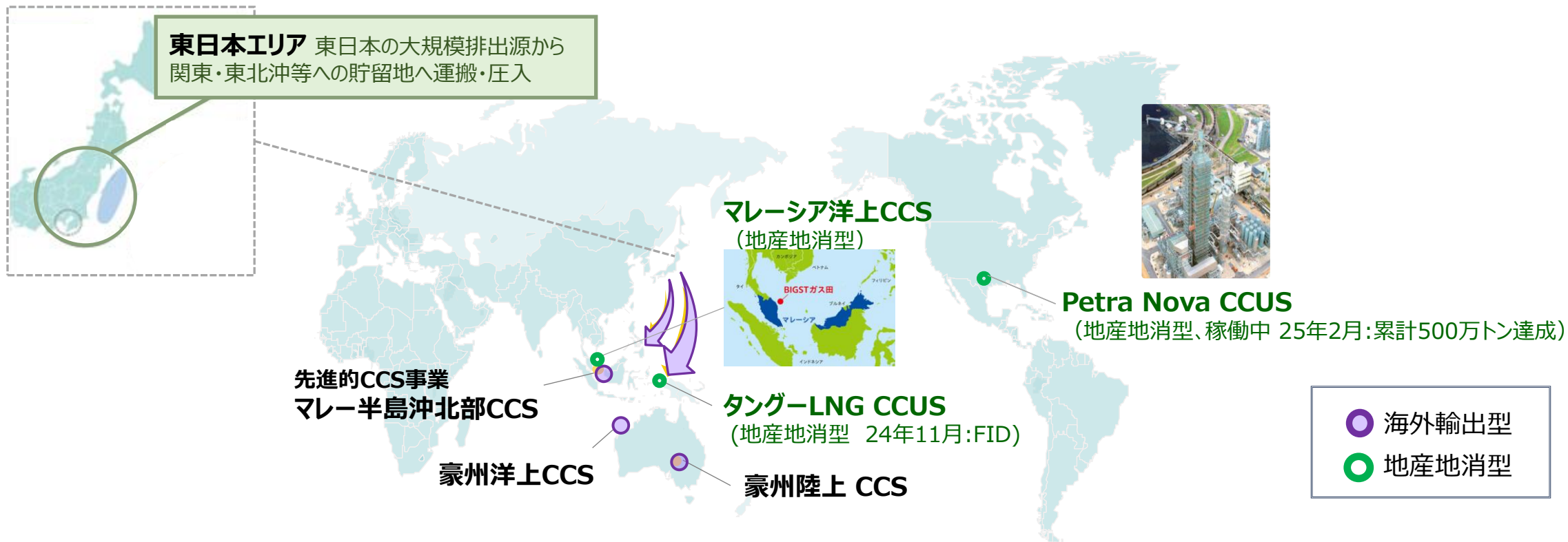
会場 長崎県庁 出島メッセ長崎 会議室108

主催：公益財団法人長崎県産業振興財団

(出所:(公財)長崎県産業振興財団 2025年1月23日 開催案内)

# その他国内および海外CCS/CCUSプロジェクト進捗状況

- 国内では、先進的CCS案件（九州西部沖）に続き、**東日本エリア**等で貯留適地を検討
- 国内の貯留キャパシティの制約を補うために、**海外においても貯留権益を確保し大規模な貯留適地への圧入を計画**（現在、マレーシアおよびオーストラリア等において具体的なプロジェクトを検討中）
- 加えて、ペトラノバPJのように既存の油・ガス生産過程や、LNGの生産プロセスにおいて発生するCO2を現地で貯留する**地産地消型のCCS/CCUSプロジェクトも積極的に追求**



# ■ 海外CCS/CCUSプロジェクト関連当社プレスリリース

## Petra Nova CCUSプロジェクトにおけるCO2回収量500万トン達成について

2025/2/17 [プレスリリース](#)

(抜粋) 2025年2月17日  
各位

ENEOS Xplora 株式会社

### 米国 Petra Nova CCUS プロジェクトにおける CO2回収量 500 万トン達成について ～大量の CO2回収と原油の生産量増加の双方を実現～

当社（社長：中原 俊也）の連結子会社である Petra Nova Parish Holdings LLC が米国テキサス州で運営するCCUS<注1>事業である Petra Nova CCUS プロジェクトは、2025年2月に、温室効果ガス（CO2）回収・貯留量が累計500万トンを達成しましたので、お知らせいたします。

本プロジェクトは、米国テキサス州のNRG社・W.A.パリッシュ火力発電所<注2>から排出される石炭燃焼後の排ガスに含まれるCO2を分離・回収し、同州内のウェスト・ランチ油田までパイプラインで輸送の上、CO2を油田へ圧入することで、CO2の地下貯留と同時に原油増産へ繋げる世界有数の規模を誇るCCUSプロジェクトであり、2017年に商業運転を開始しました。本プロジェクトにおけるCO2回収プラントは、燃焼後排ガスからCO2を回収するものとしては、世界最大規模であり、年間約140万トンのCO2を回収することができます。



Petra Nova CCUS プロジェクトのCO2回収プラント遠景

ENEOS Xplora 株式会社

## タングーLNGプロジェクト拡張開発計画の最終投資決定について

2024/11/22 [プレスリリース](#)

(抜粋) 2024年11月22日  
三菱商事株式会社  
株式会社 INPEX  
J X石油開発株式会社  
三井物産株式会社  
エルエヌジージャパン株式会社  
独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構

### インドネシア共和国 タングーLNG プロジェクト拡張開発計画の最終投資決定について

インドネシア共和国（以下、「同国」）西バブア州におけるタングーLNG プロジェクト（以下、「同プロジェクト」）の参加各社は、オペレーターであるbpと推進する同プロジェクトにおいて、総額70億米ドルとなるタングーLNG 拡張開発計画（英名：Tangguh Ubadari, CCUS, Compression (UCC) Project. 以下、「同計画」）の最終投資決定（FID）を実施いたしました。

<同プロジェクト概観>

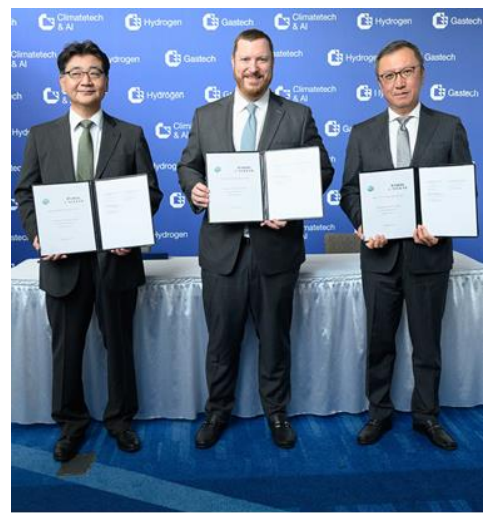


## Calcite Carbon Removal社 DACプロジェクトへの参画について

2024/9/18 [プレスリリース](#)

(抜粋) 米国 Calcite Carbon Removal 社 DAC プロジェクトへの参画について

JX 石油開発株式会社（社長：中原 俊也、以下、「当社」）は、このたび、米国関連事業会社 JX Nippon Oil Exploration (U.S.A.) Limited（社長：種井 健夫、以下、「NOEX USA」）を通じ、環境対応型事業の拡大推進を目的として、米国 8 Rivers Capital, LLC（以下、「8 Rivers」）の完全子会社である Calcite Carbon Removal, LLC（以下、「CCR」）が米国で推進する直接空気回収（Direct Air Capture、以下、「DAC<注1>」）プロジェクトへの参画を決定いたしましたので、お知らせいたします。



締結の様子



8 RiversのDAC技術“Calcite”概要図

---

ご清聴ありがとうございました